アートキャンプ 2026

報告書

2026 年 10 月



協力：児童養護施設　聖園子供の家（神奈川県藤沢市）

助成：

スポンサー：

パートナー：

May Parichart Kosoltrkul, Thailand

主催：

はじめに

NPO リトル・クリエイターズは、恵まれない環境に置かれた子ども（18 歳以下）が、アートをツールに自分を表現し、人と出会い、交流する機会を得て、見えない障害を乗り越えて社会を生きていくための「夢」や「智慧」「力」をはぐくむ手助けをしようと活動している。2023 年から隔年、児童養護施設 聖園子供の家の中高校生 2 人をシンガポールに送り、今いる世界とは違う世界をのぞいてみる体験プログラムを実施した（『ショートスティ in シンガポール』www.littlecreators.jp/contents/report/）。その際に、今度は迎える側で世界の子どもとつながりたいという声を聞き、形にしたのが当該企画『アートキャンプ』で、2024 年に続いて2回目である。

『アートキャンプ 2026』では、アートをツールとして言葉の壁を乗り越えて国際交流を行うこと、交流、協力して形にしたものを発表することを目的に開催した。求めた成果は、恵まれない環境に置かれた子どもたちが今いる世界がすべてではないことを恵まれない環境に置かれた子どもに認識させ視野を広げさせること、言葉の壁があっても、相手を思いやり、助け合い、学び合うことを奨励するとともに、学習意欲の向上にも繋げていくこと、そして本来その子どもが持っている力を引き出し自己決定できるように働きかけることである。

求めた成果を収めることができたかどうかの判断は第三者に委ねるが、参加者へのアンケート、付添人へのアンケート、施設へのアンケートを本報告書にまとめてあるのでご参照いただきたい。

『アートキャンプ 2026』を開催するにあたり多大なるご助成を賜った日本万国博覧会記念基金、ご支援くださった株式会社 ジー・キューブに心から感謝申し上げます。また、当該企画を疑うことなく受け入れてくださり、会場を提供し暖かく海外参加者を迎えてくださった聖園子供の家のスタッフそして子どもたちに御礼申し上げます。いつも当 NPO の活動に寄り添って協力してくれるアジアの仲間たち、シンガポールのザ・ ライス社、マレーシアのスマイル・チーム、インドネシアのヤヤサン・アサ・セハティのスタッフ、タイの友人メイにも感謝の言葉を送ります。子どもたちのために、いつも同じビジョンを胸に抱いてくれている皆様、本当にありがとうございます。

参加者

当初、日本（聖園子供の家）からの参加者は 4 人、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイからはそれぞれ 2 人の計 12 人で計画していたが、マレーシアとインドネシアからもう 1 人ずつ希望があり、計 14 人を対象に開催された。聖園の 4 人の内 2 人は 2025 年に『ショートスティ in シンガポール』の参加者、残りの 2 人は 2027 年に参加予定の子どもだった。また、海外からの参加者の中には、貧困家庭で育つ子ども、差別に苦しむ子どもも含まれていた。

また、聖園を会場としたプログラムには、未就学児から高校生まで、多くの聖園の子どもも加わった。

ホテル滞在

参加者全員が 9 月 18 日(金)から 22 日(火・祝)まで(4 泊)、藤沢駅からほど近いホテル法華クラブ湘南藤沢に滞在。生憎、朝食が提供されないホテルだったため、朝食は前日や早朝にルームメイトや付添人と購入して済ませることになった。

部屋割りは、以下の通り。4 人部屋と 2 人部屋があったが、いずれも鍵が部屋につき 1 つだったため、同部屋の子ども同士で計画的に使いまわした。

ルーム 1	女子	シンガポール(15 歳)、マレーシア(18 歳)、インドネシア(15 歳)、 日本(16 歳)
ルーム 2	男子	インドネシア(11 歳)、インドネシア(9 歳)、タイ(13 歳)、日本(16 歳)
ルーム 3	女子	シンガポール(18 歳)、マレーシア(17 歳)
ルーム 4	女子	マレーシア(16 歳)、日本(17 歳)
ルーム 5	男子	タイ(12 歳)、日本(14 歳)



スケジュール

４月７日　　４カ国パートナー組織とのオンライン・キックオフミーティング

1）　主旨説明と参加者推薦依頼（できれば音楽の演奏ができる子ども）

2）　美術ワークショップ　参加者への絵画作品「月」制作依頼

3）　シンガポールへはダンス振り付け依頼、インドネシアへはミニコンサート音楽監督依頼

＊以後は各国ごとに連絡、打ち合わせ

６月 21 日



聖園で絵画作品「月」制作ワークショップ

未就学児から高校生まで、ハガキ代の用紙に月をイメージして思い思いに描く。

８月４日　　ダンス・ワークショップ用ビデオ配布

８月７日　　ミニコンサート構成決定

８月 13 日　　参加者の事前オンライン・ミーティング

1）　参加者自己紹介

2）　海外参加者による日本のイメージ、知っていること発表

3）　プログラム発表（宿泊は他の国の子どもと同室になることも伝達）



８月 15 日　　美術ワークショップ　絵画作品「月」提出締め切り

８月 16 日　　聖園で折り紙ワークショップ準備



海外からの参加者に、動物の折り方を教えられるように未就学児から高校生まで、折り方を確認。

８月末　　音楽ワークショップ　発表曲決定、コラボレーション楽譜配布

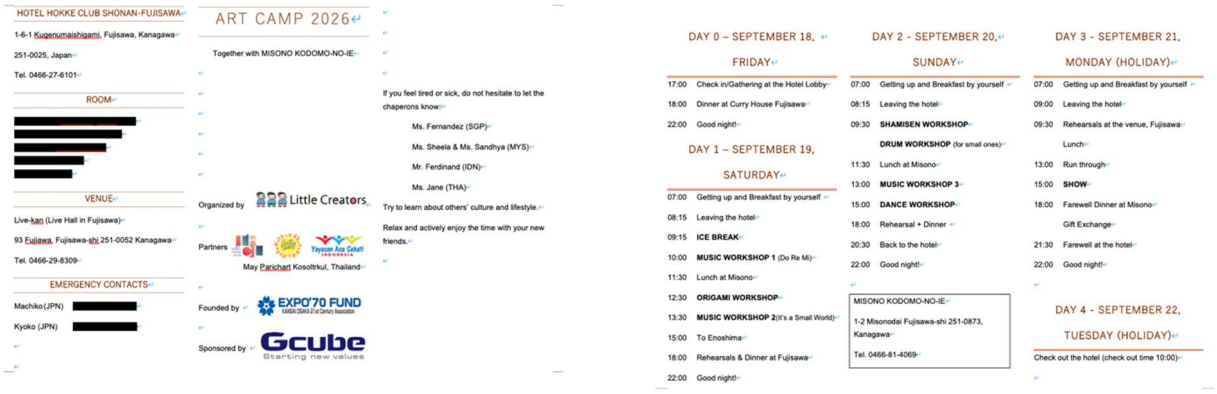
９月 13 日　　聖園の参加者とのオンライン・ミーティング

Day 0 – 9 月 18 日(金)

17:00　ホテル集合

飛行機の到着時間の関係で、シンガポールとインドネシアの参加者が集まった。マレーシア、タイは 20:00 ごろの到着、聖園の参加者は学校行事の都合で 20:30 ごろの到着になった。各参加者をホテルロビーで迎える時間がバラバラだった為、各国参加者へ主催者の意図を丁寧に伝える時間はあったものの、子ども同士の最初の出会いには、もう少し時間が欲しかった。調整が難しいところではあるが、次回以降の課題である。

参加者には、緊急連絡先も掲載した A4 版で持ち歩き可能なプログラムを配布した。



HOTEL HOKKE CLUB SHONAN-FUJISAWA
1-6-1 Kugenumaishigami, Fujisawa, Kanagawa
251-0025, Japan
Tel. 0466-27-6101
ROOM
[redacted]
VENUE
Live-kan (Live Hall in Fujisawa)
93 Fujisawa, Fujisawa-shi 251-0052 Kanagawa
Tel. 0466-29-8309
EMERGENCY CONTACTS
Machiko (JPN) [redacted]
Kyoko (JPN) [redacted]

ART CAMP 2026
Together with MISONO KODOMO-NO-IE
Organized by Little Creators
Partners
May Parichart Kosoltrkul, Thailand
Founded by EXPO'70 FUND
Sponsored by Gcube Starting new values

If you feel tired or sick, do not hesitate to let the chaperons know:
Ms. Fernandez (SGP)
Ms. Sheela & Ms. Sandhya (MYS)
Mr. Ferdinand (IDN)
Ms. Jane (THA)
Try to learn about others' culture and lifestyle.
Relax and actively enjoy the time with your new friends.

DAY 0 – SEPTEMBER 18, FRIDAY
17:00 Check in/Gathering at the Hotel Lobby
18:00 Dinner at Curry House Fujisawa
22:00 Good night!

DAY 1 – SEPTEMBER 19, SATURDAY
07:00 Getting up and Breakfast by yourself
08:15 Leaving the hotel
09:15 **ICE BREAK**
10:00 **MUSIC WORKSHOP 1** (Do Re Mi)
11:30 Lunch at Misono
12:30 **ORIGAMI WORKSHOP**
13:30 **MUSIC WORKSHOP 2**(It's a Small World)
15:00 To Enoshima
18:00 Rehearsals & Dinner at Fujisawa
22:00 Good night!

DAY 2 - SEPTEMBER 20, SUNDAY
07:00 Getting up and Breakfast by yourself
08:15 Leaving the hotel
09:30 **SHAMISEN WORKSHOP**
DRUM WORKSHOP (for small ones)
11:30 Lunch at Misono
13:00 **MUSIC WORKSHOP 3**
15:00 **DANCE WORKSHOP**
18:00 Rehearsal + Dinner
20:30 Back to the hotel
22:00 Good night!

MISONO KODOMO-NO-IE
1-2 Misonodai Fujisawa-shi 251-0873, Kanagawa
Tel. 0466-81-4069

DAY 3 - SEPTEMBER 21, MONDAY (HOLIDAY)
07:00 Getting up and Breakfast by yourself
09:00 Leaving the hotel
09:30 Rehearsals at the venue, Fujisawa
Lunch
13:00 Run through
15:00 **SHOW**
18:00 Farewell Dinner at Misono
Gift Exchange
21:30 Farewell at the hotel
22:00 Good night!

DAY 4 - SEPTEMBER 22, TUESDAY (HOLIDAY)
Check out the hotel (check out time 10:00)

18:00　夕食

シンガポールとインドネシアの参加者と食事へ。マレーシアとタイは、機上で食事をしたこともありコンビニエンスストアで軽食を購入し済ませた。その後は各自割り当てられた部屋へ移動し、最初のぎこちない夜を過ごした。



22:00　就寝

Day 1 – 9 月 19 日(土)

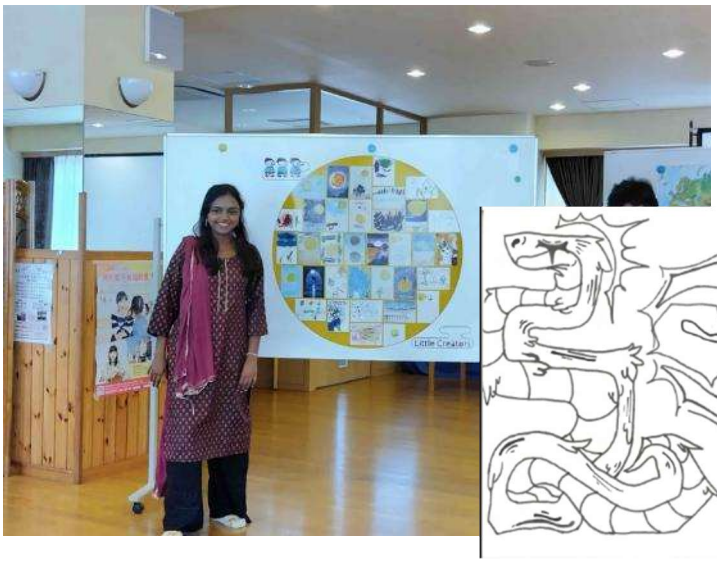


08:15　ホテル出発

　ワークショップなどの会場となる児童養護施設　聖園子供の家　ヨハネホームへ移動。日本の 4 人の参加者が先導し、切符の購入方法を教え聖園の最寄駅である善行へ。市立の運動場や、住宅地、藤沢の自然を見学しながら、30 分で到着できるはずのところに 1 時間ほどかけて到着した。

09:15　アイス・ブレイクと美術ワークショップ

　『アートキャンプ 2026』のテーマは「月」。ちょうど開催期間が中秋に近いこと、月の裏側に今年人類が久しぶりに足を踏み入れたことなどから選ばれたテーマである。参加者には、どんなに離れていても月の同じ顔(面)をみんなが見ていて、お互いのことを思い出しているかもしれないことを、将来の励みにしてもらえればという願いが込められている。







　集まった作品を「月」の形のポスターに仕立て、その中に自分が描いた作品を探して、それを紹介しながら自己紹介を行なった。得意の楽器と月をモチーフにしたもの、幻想的に月を描いたもの、風習と合わせて描いたものなど、同じ月にもいろいろな顔があることに、参加者も驚きと感心の様子を見せていた。



　台風 25 号が近づいていたことから、アイスブレークとしててるてる坊主を全員で作理、天気の好転を祈った。突然に出された課題であったが、聖園の子どもと海外の参加者は無理なく溶け込めた様子だった。

10:00　音楽ワークショップ

　ミニコンサートと音楽ワークショップは、インドネシアの付添人フェルディナンド・マルサ氏が力を貸してくれた。以前から当 NPO のコンサート活動に協力をしてくれているので、子供にあまり負担をかけない方法で楽譜をアレンジしたりワークショップを進行してくれた。



　ミニコンサートのコラボレーション曲「ドレミの歌」の練習。ピアノとキーボードをインドネシアの参加者、フルートとキーボードをタイの参加者、歌のソロパートをインドネシアの参加者、コーラスを残りの参加者と聖園の子どもが担当した。最初のワークショップということもあり楽器で伴奏をする参加者の息が合うか心配だったが、30 分ほどで楽しそうに演奏するようになった。ドレミの歌のコーラスは日本語で歌う子と英語で歌う子がいて、後から思うと日本語に統一すればよかったかと思うが、無理なく母語で未就学児から高校生まで全員で音を楽しんだという点では満点と言えるかもしれない。

11:30　聖園でのランチ





　聖園でいつも子どもが食べているランチを、1 日目と 2 日目に提供いただけるようお願いしたものの、今回はハラルに加えベジタリアンを希望する参加者がいたため、聖園の調理担当者にはメニューを試行錯誤いただいた。お手数をかけたことを想像してか、ハラル、ベジタリアン希望者が調理担当者との記念撮影を希望。日本との文化の違いをここでも感じた様子だった。

　音楽ワークショップの終わりには、皆、興奮状態だったが、食事が始まると一斉に沈黙。黙々と食事をした。最初の全員での食事ということもあり、「いただきます」「ごちそうさま」を伝える一幕も。

　食後には、それまでお客様のようだった海外からの参加者も、聖園の参加者と一緒に片付けをし、だんだんと周りのことが見えてきた様子だった。

12:30　美術ワークショップ　折り紙

『アートキャンプ 2024』の際に、聖園の子どもが何か海外からの参加者に教えられる機会があると良いという趣旨の声があったことから、折り紙ワークショップを企画した。

大きな紙に折り紙で動物園を作ることを目標に、聖園では事前に準備ワークショップも開催しタヌキやリス、キリンやトラなど色々と作った。が、ワークショップを始めてみると、午前中に一緒にてるてる坊主を作ったことも助けてか子ども同士の間に垣根がなくなっており、飛行機が作りたくなったり、船が作りたくなったり。折り紙の本も広げながら、動物園はちょっと忘れて、折りたい折り紙に没頭した。

13:30　音楽ワークショップ

ミニコンサートのコラボレーション2曲目「小さな世界」の練習。午前の音楽ワークショップに引き続きということもあり、和気藹々と演奏もコーラスも練習が進んだ。今度は聖園の子どもは英語で歌うことになり、最初は戸惑いもあったが、だんだんと自信をつけていく様子が見られた。

練習の後には、聖園の子どもが楽器のところへ。海外参加者が弾き方を教えるワンシーンも見られ、音楽に興味を持つきっかけになると良いと、遠巻きに付添人らが見ていた。

15:00　江ノ島観光



『アートキャンプ 2026』では観光の機会はほとんどなく、また天候の心配もあり、江ノ島への少しばかりの遠足がその代わりとなった。迷子になるアクシデントもあったが、思い出にするものを買ったり、お土産を見つけたりする参加者もいた。

18:00　リハーサル＆夕食

9 月 21 日に予定されていたミニコンサートの会場ライブ館（藤沢）でリハーサル。マレーシアはインド舞踊、インドネシアはボーカルとピアノ、タイはフルートとピアノの各国ごとに披露する演目を練習した。シンガポールと日本の参加者は司会進行をすることに。ミニコンサートのタイトルを「リトル・スターズ」と決め、シンガポールの参加者は日本語で、日本の参加者は英語で発表するための台本を作り始めた。







22:00　就寝

Day 2 – 9 月 20 日(日)



08:15　ホテル出発

　朝からどんよりとした空模様。いよいよ台風が近づいてくる様子で、参加者はレインコートや傘を持って聖園へ。

09:30　三味線ワークショップ／パーカッション・ワークショップ

　参加者と中学生以上の聖園の子ども対象に三味線のワークショップを開催。講師は当 NPO の活動に力を貸してくれている長唄三味線の菊池光峰氏。三味線を見たことも、触ったこともない子どもばかりで、三味線の持ち方もバチの持ち方も苦戦していたが、2 時間のワークショップの最後には「大薩摩」が全員で演奏できるようになった。





　小学生以下の聖園の子どもには、パーカッションのワークショップをフェルディナンド・マルサ氏が提供。新型コロナウイルスが流行った時に、オンラインで今回と同じシンガポールのパートナーとオンライン・パーカッション・ワークショップを開催した。その際送ってもらったコンパン 6 張とリングベル 2 個を使ってそれぞれ違うリズムを刻んで合奏した。集まった子どもの数が多く楽器が足りず、ダンボールや紙を使って即席の楽器(音が出るもの)を作ったが、やはり本物の楽器に触りたい様子だったので、交代で演奏を楽しんだ。

11:30　聖園でのランチ

13:00　音楽ワークショップ

　9 月 19 日に練習をした「ドレミの歌」と「小さな世界」の復習。21 日に舞台で立って歌うことをイメージして演奏者と同じ向きに立って歌ってみた。出だしや歌詞など本番でちゃんとできるか不安は残ったが、幼い子どもほど声が出ていたのが印象的だった。

15:00　ダンス・ワークショップ

「ジャングル　― レッツ・ゴー・バック」の選曲、振付は、シンガポールのシャヒズマン氏。シャヒズマン氏は、今回のシンガポールのパートナーが運営する 10 スクエアという青少年向けアート・センターのインキュベーション・プログラムを終了して、進学、プロのダンサーとして活躍している。10 スクエアで学んでいた頃に、当 NPO の活動にも参加した経緯がある。

「ジャングル　― レッツ・ゴー・バック」のダンス映像は、参加者全員に事前に送って練習してもらえるようお願いしていたが決して容易な振付ではないため、若手指導に定評がある村瀬美音氏をインストラクターに招いて、振付を確認しながら全員で踊れるようになった。

夕刻　予定変更

てるてる坊主の援護虚しく、翌 21 日の台風 25 号接近が避けられないことが判明した。予報によると 21 日は午前中遅くから午後遅くまで、藤沢周辺では暴風雨が続くとのことだった。聖園と相談して、子どもの安全と充実したプログラムの提供を考え、参加者は朝早めに聖園に到着し、ミニコンサートも含めて全てを聖園で行うことにした。ホテルへの戻りについては、聖園でマイクロバスを提供してくださることも決定。万全の策を講じた。21 日の昼食だけが手配がつかなかったが、弁当屋に発注し目処がついた。

翌日の新しいスケジュールとミニコンサートの変更（会場変更による演奏順番の変更）を各国付添人と聖園スタッフに説明、配布し、参加者にも伝えた。

18:00　リハーサル＆夕食

ライブ館でリハーサル。ミニコンサートの会場がライブ館から聖園に変更になったため、前日決めていたプログラムが変更になった。（更新されたプログラムは、21 日に記載）演奏チームはさほど影響はなかったが、司会チームは台本を調整する必要があり、発音の練習も含め一番遅くまでリハーサルを行なっていた。

そして参加者全員でファミレスへ。







22:00　就寝

DAY 3 ― 9月21日(月・祝)

08:00　ホテル出発

　藤沢周辺は9時ごろから雨がひどくなるという予報を聞き、それまでに聖園に到着しているように、少し早めに行動を開始した。



09:30　リハーサル開始

　食堂では、インドネシアとタイのチームが各国の出し物として準備している演奏や歌を練習。体育館では、マレーシア・チームがインド舞踊を、シンガポールと日本チームが、プログラムの流れやマイクの使い方を確認し、司会の練習を行なった。



11:00　三味線リハーサル

　体育館で、前日に習った「大薩摩」を復習。ミニコンサート中に、どのように楽器を扱うかなど入念にチェックした。



11:30　ダンス・リハーサル

　「ジャングル　― レッツ・ゴー・バック」を聖園の子どもも交えて復習。雨がどんどんひどく中、音楽が聞こえなくなることもあったが、立ち位置など確認しながらみんなで息を合わせた。

12:00　昼食

　前日注文をしておいた弁当屋が台風で急遽閉店に。スタッフが慌てて、スーパーでベントやおにぎり、サンドイッチを購入し、なんとかその場を凌いだ。

13:00　合唱リハーサル

　食堂で聖園の子どもも交えて「ドレミの歌」と「小さな世界」の練習。雨で外で遊べないためか、子どものエネルギーが弾けそうで集中力が続かなかったため、早めに切り上げ本番に備えた。

14:00　会場準備

会場は体育館と食堂。別棟になっていることから、客席用の椅子を運んで並べるなど、多少の準備が必要になった。この時までには、声を掛け合わなくても自主的に手伝いをする子どもも増えた。本番までに少し時間の余裕があり、ミニコンサートの後に待つプレゼント交換準備や友達になった参加者へのメッセージカード記入、暇な子ども同士でゲームをするなど、外の台風のピークとは逆に少しゆったりとした時間を過ごした。



15:00　ミニコンサート

観客は台風の影響で少なく、聖園のスタッフ、当 NPO のスタッフ、各ワークショップの講師、付添人など 20 人ほど。それでも温かい雰囲気の中で、時間通りに開催された。プログラムは以下の通り。練習やリハーサルでは集中力を欠いたり、できない事もあったのに、本番には強いのが子ども。他の子どもの演奏や踊りは静かに食い入るように見つめ、本人の出番には元気いっぱいに歌い踊って、温かいミニコンサートになった。当初目標としていた、初めて出会った子どもがミニコンサートで一つになることができた。

第一部 （体育館）		
オープニング		司会　日本参加者 B（英語）
1.三味線演奏	大薩摩	参加者全員＋聖園中学生以上
		司会　日本参加者 D（英語）
2.インド舞踊	Suddha Nrittam	マレーシア参加者　全員
		司会　日本参加者 D（英語）
3.ダンス	ジャングル　― レッツ・ゴー・バック	参加者＋聖園　全員
		司会　日本参加者 A（日本語）
休憩　10 分		
第二部 （食堂）		
		司会　日本参加者 A（英語）
4.ピアノ連弾	Scherzo No. 1, Op. 1 in F major for Piano Four Hands – César Cui	タイ参加者　全員
		司会　シンガポール参加者 B（日本語）
5.ピアノ弾き語り	フライ・ミー・トゥ・ザ・ムーン	インドネシア参加者 A
		司会　日本参加者 C（英語）
6.フルート　デュオ	天空の城ラピュタ	タイ参加者　全員
		司会　日本参加者 B（英語）

7.ピアノ	チタン・トッカータ	インドネシア参加者 C
		司会　日本参加者 C（英語）
8.合唱	小さな世界	参加者＋聖園　全員
		司会　シンガポール参加者 A（英語）
9.合唱	ドレミの歌	参加者＋聖園　全員
出演者紹介＋ クロージング		司会　シンガポール参加者 A（日本語）







16：00　プレゼント交換

セレモニーのように開催するつもりが、ミニコンサートの余韻で興奮状態の子ども（大人もですが）。なし崩し的に、それぞれでプレゼント交換を始めた。各国からのお土産にますます興奮する子ども。そんな中日本参加者 D がマイクを握り、場を仕切り、日本参加者から各国参加者への贈り物（色紙の寄せ書き）を正式に渡した。子どもの自主性が、表れてきた。

16：30　インド舞踊ワークショップ

台風の影響で時間に余裕ができた。マレーシアの付添人がインド舞踊のワークショップをと名乗り出てくれたので、参加者と聖園の子どもも全員で体育館に移動、マレーシア参加者が手本となってインド舞踊の手の動き、表情の作り方、そして足の運びを習った。日本参加者 D が積極的に通訳を買って出て、たくさんの子どもがインド舞踊を体験し忘れがたい時間になった。

18:00　フェアウェル・ディナー



『アートキャンプ 2026』最後のイベント、聖園の子ども全員と夕食をとりながら別れを惜しんだ。外の台風の音がかき消されるほどの賑やかさに、3日間で子ども同士の垣根がどれほど低くなったかが証明されたようだった。特に 3 日目は、図らずもずっと聖園の屋内で、みんなで過ごしたこともあり、特に何かを仕掛けることなく交流できた。

お誕生日のお祝いも！

20:30　振り返り



『アートキャンプ 2026』5カ国の参加者だけが食堂に残って、車座に。今回のキャンプで、何が印象に残ったか、どんな思い出ができたか、を一人ひとりに問いかけた。想いが溢れて言葉にならない子、感謝を口にして涙で声を詰まらせる子、恥ずかしさが先にたち素直に話せない子 ― それでも異口同音にまた会えることができたら、と将来に希望をつないでいた。



聖園を後にする頃には台風もおさまりつつあったが、予定通り聖園が用意してくださったマイクロバスでホテルへ戻った。マイクロバスまでの道、宿舎の窓から子どもが顔を出して、泣き笑いしながら見送ってくれた。







22:00　就寝

DAY 4 ― 9月22日(火・祝)

06:45　タイ参加者出発



　前夜に別れを済ませていたことや早朝であることから、誰も見送りをする予定はなかったが、日本参加者はホストとしての意識からか、ホテルのロビーで見送った。

10:00　チェックアウト、出発

　シンガポール、マレーシア参加者は、帰国便まで過ごす東京へ車で出発。日本参加者は新たにできた友達を見送りながら、各国付添人に言葉をかけられていた。

参加者アンケート

■日本：聖園子供の家

1.　ワークショップをいくつか体験しましたが、どれが一番印象に残っていますか？どんなところが気に入りましたか。

2.　海外のお友達のことを気遣うこと、お世話することはできましたか。

　　2-1.　ホテルで海外の子と一緒にお部屋を使っていますが、どうでしたか？何に 困りましたか？どう乗り越えましたか？

　　2-2.　移動や食事の時など、ちゃんとお世話できましたか。

　　2-3.　海外のお友達とのことで、何か印象に残っていることや楽しいなと思ったことはありますか？

3.　ミニコンサートをしました。楽しかったですか。またやりたいですか。今度やる時にはどんな事をしたいですか。

4.　プレゼントをいただきましたね。どう思いましたか？ 自分が送ったプレゼントは喜んでもらえましたか？

5.　『アートキャンプ』を体験して、自分自身についての何か新しい発見や今後はこんなこと に挑戦したい、頑張りたい、と思うことはありましたか？どんなことですか？

6.　こんな海外の同世代との交流会をまたしたいと思いますか？なぜですか？次はこんな ことがしたい、という希望はありますか？

1. ダンスが一番印象に残っています。みんな難しくて苦戦していたけど、苦戦したことも一緒に練習して楽しくていい思い出になりました。

   三味線のワークショップが印象に残理ました。ギターに元々興味があり、近いものを体験出来てよかったです。

   三味線が一番印象に残っています。三味線は日本の誇れる文化だけど触れることは少ないし、今後体験できるかわからない中で今回海外の仲間と一緒に体験出来てすごくうれしかったです。

2-1. 特に困ったことはありませんでした。スマホの翻訳機能を使いながらだけどコミュニケーションはたくさんとることが出来た。

とにかく初めて会う人たちだけと一緒に過ごすことが、慣れないことも言葉がうまく通じないことも大変だった。他の友達や大人に相談して乗り超えました。

特に困ることはありませんでした。

1番は言語の壁を感じたけれど、初日にホテルで自分の部屋を開けた時、★★や★★が笑顔で迎えてくれて少し緊張も解けました。ジェスチャーなどで何とか意思疎通が出来て、翻訳機能なしで乗り越えられたと思います。

2-2. できたと思います。ただところどころジェスチャーが通じなくて、大変でした。

スマホの翻訳機能を使いながら、頑張って伝えました。

できたと思います。

小学生の子もいたので少し騒がしいところもあったけど、みんないい子たちだったので、コミュニケーションをとりながら何とかお世話できたかなと思っています。

2-3. たくさん話して相手の事をよく知ることが出来たのが、一番印象に残っています。たくさん写真も撮ることが出来ました。

夜の時間にとても元気で、ずっと話をしていたこと。

一緒に買い物に行ったことが印象に残っています。

ホテルで UNO をしたり、日本のアニメを見たことは楽しかったです。言語は分からないはずなのに、真剣に見ていたのが印象深かったです。

3. 苦手なダンスとかもあったけど、参加してみたら楽しかったです。

ミニコンサートはすごく楽しかったです。内容もよかったので、特に変えなくて大丈夫。

楽しかったのでまたやりたいです。次回は特技を見せあったりできると良いと思いました。

コンサートの司会を英語でやると聞いたときは少し抵抗があったけど、良い経験になりました。聖園の子も静かに聞いてくれてやりやすかったです。

4. プレゼントをいろいろもらってとてもうれしかったです。でも、私たちがあげたプレゼントは少し足りなかったかな、と思いました。

   いろいろな物を交流の中でもらって、自分たちは色紙だけでよかったのかな、と思いました。色紙だけでなくて、日本の有名なものをあげたりしたいと思いました。

   頂いたプレゼントはうれしかったです。自分の色紙も喜んでもらえてよかったです。

   自分は★★（シンガポール参加者 A）から手紙をもらいました。そこには『アートキャンプ』を通して2回も会えたこと、聖園の子たちの笑顔が見れたことを喜ぶ文章が書いてあって感動したし、参加できてよかったと改めて思いました。日本からの色紙も喜んでくれたし、日本のアニメを書いたので知っている人もいてよかったです。

5. いろいろな人と話をするのは、楽しいと思った。もっと英語に普段から触れた方がよかったです。

   新しい発見はなかったです。

   今後もっと英語を話せるようになりたいと思ったので、頑張りたいです。

   『アートキャンプ』とシンガポールステイは今回で3回目の参加で、毎回色々な文化を持つ国の方が来てくれて体験させてもらったり、その国の言語の単語だったりを教えてもらってまだまだ知らないことばかりでとても良い学びの場になりました。完璧まではいかないけど、英語も少し力を入れたいと思いました。

6. また交流を持ちたいと思います。海外のことの交流は楽しいので、これからも続けていくといいと思います。

   お世話係という形では大変だったり、ホテルでの生活が大変だったので、交流会はしたくないと思います。

   ぜひやりたいと思います。次はゲームを一緒にやってみたいと思います。

   自分は去年シンガポールに行かせてもらったけど、やはりまだ見たいものも学びたいこともたくさんありました。また行けるのであればまた体験したいと思います。行けなくても再来年またみんなが日本に来てくれた時には、盛大に歓迎したいです。それと日本に来てもらう年は毎回日本の文化に触れてもらっているので、ずっと続いてほしいです。

7. 今回も素敵な企画を考えて下さり、ありがとうございました。今回は色々と最初大変だったけど、みんなの絆は最終的には深まったと思いました。ありがとうございました。

   自分は大変だと思うことが多かったけど、新しい経験や知識をたくさん学ぶことが出来たので、すごくよかったです。

   今回はこのような機会を設けて頂き、ありがとうございました。来年もよろしくお願いします。

今回で『アートキャンプ』とシンガポールステイは4回目になると思います。参加してみて、毎回リトル・クリエイターズのみなさんに感謝しきれないほどの思いを持っています。自分が卒園した後にも続いて行ってほしい素晴らしい体験だと思います。自分が在園中はこの『アートキャンプ』に参加する子どもたちに素晴らしさと、とても貴重な機会を無駄にしないでほしいということは伝えたいと思います。改めて、2026 年『アートキャンプ』を開催して下さって、本当にありがとうございました。

■海外

1. 日本に来たのは初めてですか。日本はどうでしたか。日本人、特に聖園でできた新しい友達についてはどう思いますか。
2. ワークショップはどうでしたか。どれが一番気に入りましたか。その理由は。
3. 異なる国からの参加者と同じ部屋に泊まるのはどうでしたか。何か大変と思うことはありましたか。それをどう乗り越えましたか。
4. キャンプの最後にミニコンサートがありました。どうでしたか。もしまたやるなら、同じようなことをやるべきでしょうか、それとも何かアイデアはありますか。
5. もしこのような国際交流プログラムがまた開催されたら、参加したいですか？ 友達にも参加を勧めますか？ その理由は？
6. 『アートキャンプ 2026』について、他に何かコメントがあれば記入してください。

<シンガポール A>

1. はい、日本に来るのは今回が初めてでした。日本はとてもきれいで、人々は礼儀正しいと思います。日本の友達は本当に親切で、日本についてたくさんのアドバイスもくれたので大好きです。困った時にはいつも助けてくれました。

2. ワークショップは、今までやったことのないものもあったし、自分を表現できたので、どれも気に入りました。

3. 新しい友達と同じ部屋に泊まれたのは良かったです。たくさんおしゃべりして、仲良くなれました。ホテルの部屋をシェアしている時は、時々スペースが足りないと感じることもありましたが、物を移動させて、みんなが快適に過ごせるように工夫しました。

4. 私にとっては、キャンプの締めくくりのミニコンサートは、練習期間が少なく、うまくいかないかったです。日本語で話した司会は楽しかったですが、日数が限られていたため少しストレスを感じました。将来またキャンプを行うとしたら、野外キャンプだったらどうでしょうか。綱引きやゲームのような、楽しく絆を深められる活動ができるなら、面白いかもしれないと思います。

5. もしこのような国際交流プログラムがまたあれば、ぜひ参加したいです。世界を探検して新しい友達にも会えるから。異なる文化を持つ人々と出会う機会は、私にはあまりありません。また、より多くの人と交流できるから、友達にも参加を勧めるつもりです。こうしたできた友達と親しくなれば、将来また会えるかもしれないと思います。

6. 本当に、本当に素晴らしいキャンプです。

<シンガポール B>

1. 日本に来るのは初めてでしだ。日本の人がとても親切で、もてなしの心を持っているところが素晴らしいと思います。聖園の新しい友達は、私たちのことを知ろうと一生懸命努力してくれて、本当に感謝しています。

2. 新しいことを学べたので、すべてのワークショップが素晴らしかったです。どれも私にとっては楽しいものでした。

3. さまざまな国の人たちと一緒に過ごすことになるとは、なかなか予想外でした。キャンプ中に知り合ったとしても、最初は見知らぬ人同士。私はオープンな心構えで参加し、新しい友達を作りたいと思っていました。コミュニケーションや互いの誤解といった課題は確かにありましたが、私たちはそれを乗り越え、『アートキャンプ』を良い形で締めくくることができたと思います。

4. ミニコンサートは印象に残るもので、キャンプの締めくくりとして素晴らしかったと思います。もしもう一度やるとしたら、まあ、何も変えることはないのではないでしょうか。とても楽しく、充実した経験でした。

5. もしこのような国際交流プログラムがまたあれば、喜んで参加したいです。また、友達にも参加を勧めます。これほど貴重な体験は滅多にないからです。このような体験ができることは、他者の文化や生活様式を学ぶ絶好の機会だと思います。

6. 日本へ旅行する機会はめったにないため、今回のような体験ができたことは私にとって非常に貴重な経験でした。新しい友達に出会えたことで、自分がどれほど恵まれているかを実感しました。将来、再び東京を訪れる際には、聖園の友達に会えることを願っています。

<マレーシア A>

1. はい、日本に来るのは初めてでした。食事も文化も大好きです。また、どこも清潔で、人々が礼儀正しいことにも気づきました。すぐに居心地の良さを感じましたし、聖園の皆さんからとても温かく迎え入れてもらいました。皆とても親しみやすく、何の活動の時にも丁寧に導いてくれました。

2. ワークショップはどれも本当に楽しかったです。創造性を刺激し、参加者同士の絆を深めてくれました。特に三味線の体験は、全く新しいことだったので楽しかったです。弾き方を覚えるためには集中しなければいけませんでしたが、そのおかげで体験はさらに興味深いものになりました。最も感謝したのは、三味線の先生方の献身的な姿勢です。言葉の壁があったにもかかわらず、先生方は常に忍耐強く、私たちが理解して正しく弾けるようになるまで教えてくださいました。

3. ルームメイトがとても親切だったので、本当に居心地が良かったです。家族以外の人と部屋を共有したことがなかったので、私にとっては特別な体験でした。ルームメイトとの間には少し言葉の壁はあったものの、特に

困難はありませんでした。Google 翻訳がコミュニケーションに大いに役立ち、物事をずっと楽にしてくれました。

4. 最後のミニコンサートは、さまざまな国のパフォーマーたちがそれぞれの才能を披露する姿を見ることができて、本当に素晴らしかったです。何より、とびきり愛らしい小さな子供たちと時間を過ごせたことが嬉しかったです。彼らと交流し、親しくなれたのは本当に楽しく、もし来年も開催するなら、この素晴らしいミニコンサートはそのままに、公演の後に各国が伝統的な料理や軽食を持ち寄って皆で分かち合う「フードフェスティバル」のコーナーを追加すると良いと思います。そうすれば、パフォーマンスと食事の両方を通じて、さまざまな文化を体験できるのではないでしょうか。

5. もちろん、機会があれば、またこのような国際交流プログラムにぜひ参加したいです。私にとって、とても有意義で忘れられない経験になりました。友達にも参加を勧めるつもりです。なぜなら、さまざまな国の人々と出会い、新しい文化を学び、コミュニケーション能力を高め、一緒に素敵な思い出を作れる素晴らしい機会だからです。

6. 『アートキャンプ 2026』を実現してくれた主催者やボランティアの皆さん、本当にありがとうございます。皆さんが懸命に力を尽くしてくださったおかげで、このキャンプは私たちにとって楽しく、思い出深いものになりました。すべてに心から感謝しています。このプログラムがこれからも長く続き、より多くの人々が体験できることを願っています。本当にありがとう！

<マレーシア B>

1. 日本に来たのは初めてです。とても美しい国で、気候もすごく気に入りました。日本人はとても親切で、他人に対して敬意を払っています。聖園の友だち、特に★★と★★が本当に大好き。

2. どのワークショップもとても楽しかったです。一番気に入ったのは三味線。音楽が大好きだからです。三味線の師匠はとても上手で、つつましやかな人でした。

3. 違う国の人たちと同じ部屋に泊まるという新しい経験ができました。
   全く(困難は)なかったです。
   ルームメイトはあまりおしゃべりではありませんでしたが、2 日目からは大丈夫でした。

4. 本当に新しい経験でした。本来はステージで行う予定でしたが、台風の影響で、聖園で開催されました。聖園でパフォーマンスできてとても嬉しかったです。
   音楽やダンスのワークショップなど、他の文化を探求できるワークショップは素晴らしいと思います。

5. もちろん参加します。新しい友達ができ、現実の世界を知ることができるから。

6. 食事や宿泊先の手配、そして私たちを世話してくれた主催者の皆さんに感謝します。日本での時間は本当に楽しかったです。

<マレーシア C>

1. はい、日本に来るのは初めてでしたが、その体験を本当に楽しむことができました。日本はとても美しく、清潔で、整然としています。日本の人々はとても親切で親しみやすかったです。聖園でできた新しい友達も、とても温かく迎え入れてくれ、助けてくれました。彼らと時間を過ごして、日本の文化についても沢山知ることができて、本当に楽しかったです。

2. ワークショップでは新しいことを学んだり、様々な活動を体験したりできて、本当に楽しかったです。一番気に入ったのはダンスのワークショップ。ダンスは私が本当に好きなことだからです。また、色々な国の人たちと一緒に学べたのも良かったと思います。それぞれのスタイルや経験を共有できたからです。

3. 最初は、皆が異なる国から来ていて、文化や習慣も違うため、少し緊張しました。でも、一緒に時間を過ごすうちに、互いに気楽に接せるようになりました。時には些細なコミュニケーションのくい違いや文化の違いもありましたが、話し合い、忍耐強く接し、お互いの違いを尊重することで解決しました。最終的には、本当に素晴らしい経験となりました。

4. 最後のミニコンサートは本当に楽しかったです。皆で一緒にパフォーマンスを行い、キャンプで学んだことを披露する機会があったからです。忘れられない経験になりました。もしまたキャンプが開催されるなら、同様のことを行うのも良いと思いますが、さらに時間を割いて、異なる国からの参加者が一緒にグループパフォーマンスを準備できるようになれば、さらに良いと思います。

5. もちろん、ぜひ参加したいです。国際交流プログラムに参加すれば、異なる文化について学んだり、新しい友達を作ったり、新しい経験を積んだりできるからです。また、自分の居心地の良い場所から一歩踏み出し、さまざまな国の人たちと思い出を作れる良い機会なので、友達にも勧めたいです。

6. 『アートキャンプ 2026』に参加できたことに心から感謝しています。多くの新しいことを学び、新しい友達ができ、日本の文化を体験できました。私にとって、とても有意義で思い出深い経験だった。キャンプを企画し、私たちを温かく迎えてくれたすべての人に感謝します。将来また会えることを願っています。

<インドネシア A>

1. はい、今回が日本への初めての訪問であり、海外旅行も人生で初めてでした。この体験全体が、まるで魔法

のようでした。両親が同行せずに海外旅行に行き、新しい人々と出会い、その過程でこれほど多くの有意義なことを学べたことが、未だに少し信じられません。

皆がとても礼儀正しく、物事が整然としていて、街が信じられないほどきれいだったので、日本の文化にすっかり魅了されました。さらに嬉しかったのは、聖園で新しい友達に出会えたことです。ほんの数日のうちに、とても居心地が良く、まるで自分の家のように感じられたのは驚くべきことです。

正直なところ、最初は言葉の壁があって、会話を始めるのに少し緊張していました。しかし時間が経つにつれて、素晴らしいことに気づきました。お互いを理解し、思いやる上で、言葉は決して障壁にならないのです。この経験は、周りの人たちに、もっと気を配り、意識を向けることの大切さを教えてくれました。

聖園の子供たちと過ごしたり、たくさんの楽しい活動に参加したりして、最高の時間を過ごしました。みんなとても温かく迎えてくれて、これからも彼らと一緒に日本の文化をもっと深く学んでいきたいと思います。心の底から、いつかまたここに戻ってきて、彼らに会える機会があることを心から願っています。この素晴らしい機会を本当にありがとう。

2. どのワークショップも本当に楽しかったです。活動そのものもさることながら、まさか知り合うことになるとは思ってもみなかった新しい友達と一緒にすべてを体験できたことが、何よりの喜びでした。彼らが折り紙の作り方を教えてくれた時は、本当に驚きました。少し難しかったけれど、ワークショップ中にみんなで一緒に笑えたので、とても幸せな気分になりました。三味線のワークショップも面白かったです。実際に三味線を見て、弾くのはこれが初めてだったので。

3. 初日の夜は、言葉の壁もあってまだコミュニケーションが少し難しかったです。でも、翌日の夜には、もう自然と笑い合ったり冗談を言い合ったりできるようになっていました。また、★★（日本人ルームメイト）と二人きりで夜食を探しに出かけました。彼女が勧めてくれた食べ物はどれも本当に美味しかったです。とても楽しい経験でした。同じ部屋で過ごすときは、お互いの習慣に合わせようと心がけました。同じ部屋で過ごす最後の夜、私たちは夜遅くまでおやつを食べながら冗談を言い合って過ごしました。これは間違いなく一生忘れない経験です。

4. 私としては、私たちが披露したミニコンサートはとても温かくて感動的でした。彼らと一緒にパフォーマンスをしてコンサートをやり遂げただけで、もう十分幸せです。将来またこのような活動に参加し、みんなに再会できる機会があればと願っています。

5. はい、ぜひまた参加したいです。新しい文化を理解することから、新しい人々と交流する方法を学ぶことまで、この経験から本当に多くのことを学びました。また、こうした活動は自立心を養うことにもつながると思います。友達にも絶対に勧めるつもりです。彼らもきっと、新しい経験を共有し、楽しむことにワクワクするはずだから。

<インドネシア B >

1. はい、日本に来たのは今回が初めてでした。日本はとても清潔で、公共施設も素晴らしく、食べ物も美味しいので、本当に気に入りました。興味深い観光名所もたくさんありました。日本人はとても秩序正しく規律正しいですが、同時にとても友好的で、いつも微笑んでいます。聖園の友達はとても親切で、温かい笑顔を持ち、親しみやすいです。また、とても前向きで、言葉の壁があっても会話に支障はありませんでした。

2. ワークショップはとても面白かったです。最初は難しそうに見えましたが、すぐにコツをつかむことができました。まだ完璧ではないですが。もっと時間があれば、もっと上達できたかもしれません。特に日本の伝統楽器を学ぶのが楽しかったです。こちらでは学ぶ機会がないので。

3. 他の友達と部屋をシェアするのは本当に楽しかったです。ゲームや映画など、好きなことについて夜遅くまでおしゃべりできました。タイ人の友達は英語が話せたので話しやすかったですが、日本人の友達は英語が話せなかったので、少し難しかったです。でも、Google 翻訳の助けを借りて、なんとか意思疎通を図ることができました。

4. ミニコンサートは楽しかったです。タイからの友達もフルートを素晴らしく演奏してくれました。もしもう一度やれるなら、演奏しやすい打楽器など、もっと多くの楽器を取り入れてみたいです。また、もっと多くの観客に私たちのコンサートを見てほしいです。

5. もちろん、このプログラムにはまた参加したいです。友達にも参加を勧めるつもりです。他の国から来た多くの人々と出会い、お互いの活動についてたくさん語り合えるからです。
6. イベントは素晴らしかったです。美しい日本という国で開催されたこともとても嬉しい点です。台風の影響はあったものの、滞在中の天気も最高でした。
   ワークショップも素晴らしく、ユニークでした。インドネシアでは学べなかったことを学ぶことができました。

<タイ A>

1. 日本を訪れるのは今回が初めてではありませんでした。以前にも何度か日本を訪れたことがありますが、今回の旅は、日本や他の国からの子供たちと出会い、友達になる機会があったという点で、以前とは大きく異なるものでした。
   日本の子供たちと会えて本当に楽しかったです。みんなとても親切で、友好的で、温かく迎えてくれました。特に聖園での時間は楽しかったです。聖園で子供たちと出会い、話をし、一緒に活動する時間は、とても特別な体験でした。

   また、日本人の子どもたちのうち 3 人がタイ系の血を引いていると知って、とても驚き、嬉しかったです。それはタイと日本をつなぐ特別な絆であり、彼らとの距離がさらに縮まったように感じました。

シンガポール、マレーシア、インドネシアなど、他の国々からの新しい友達もできました。彼らと話すのは本当に楽しかったです。

2. どのワークショップもそれぞれ異なり、新しい体験をする機会を与えてくれたので、どれも本当に楽しかったです。

   てるてる坊主作りや折り紙といった日本のアクティビティは、日本の文化についても学べたので楽しかったです。

   三味線のワークショップも素晴らしかったです。今までやったことのないことに挑戦できて面白かったです。

   一番気に入ったのは、音楽コラボレーションで、特に『イッツ・ア・スモール・ワールド』と『ドレミの歌』です。さまざまな国の子どもたちと一緒に音楽を作るのが楽しかったです。みんなが一緒に演奏し、歌うのを聞くのはワクワクしました。

   また、マレーシアのチームと一緒にインド舞踊のワークショップに参加できたのも本当に楽しかったです。楽しくて、みんなとてもエネルギッシュでした。

3. 僕は★★、★★、★★と部屋を共有した。キャンプの前は彼らに会ったことがなかったので、最初は知らない人たちと同じ部屋で過ごすことに少し違和感がありました。

   でも、すぐに打ち解けて友達になりました。お互いにコミュニケーションを取り、相手の習慣を尊重し、空間を分かち合うことを学びました。一緒に過ごしたおかげで、より自立し、自信を持てるようになったと思います。寝る前に新しい友達と話をして、その日の体験を語り合えたのも楽しかったです。

4. グループで練習や準備を重ねたあと、一緒にパフォーマンスをする機会が得られたので、ミニコンサートは本当に楽しかった。

   台風の影響でプログラムに変更が生じた時は少し大変でしたが、スタッフが素早く新しい会場を手配し、皆をサポートしてくれたことは印象的でした。結局、無事にコンサートを行うことができ、その経験はさらに思い出深いものになりました。

   もしまた『アートキャンプ』が行われるなら、ぜひまたコラボレーションをやりたい。もっと多くの国からの子どもたちが一緒に、音楽やダンス、歌を組み合わせたパフォーマンスをできれば素晴らしいと思います。

5. はい、絶対に。またこのような国際交流プログラムに参加したいです。

   友達にもぜひ勧めるつもりです。なぜなら、さまざまな国からの友達を作り、異なる文化を体験し、新しいことを学べるチャンスだからです。

   また、初めて会う人々とコミュニケーションを取らなければならないため、自立心を養い、自信をつけるのにも良い方法だと思います。

6. キャンプ期間中、私たちをとてもよく面倒を見てくれたスタッフの皆さん、本当にありがとう。みんなとても親切で、助けてくれました。

   すべてのプログラムやワークショップ、パフォーマンス、そして新しい友達と過ごした時間を本当に楽しみました。

   また、日本、シンガポール、マレーシア、インドネシアの友達からもらったプレゼントにもとても感謝しています。プレゼントが、『アートキャンプ 2026』でできた友達や思い出を思い出させてくれるでしょう。

   『アートキャンプ 2026』は私にとってとても特別な経験でした。いつかまた、みんなに会えることを願っています。

<タイ B>

1. 日本を訪れるのは今回が初めてではありませんでしたが、さまざまな国から来たたくさんの新しい友達に出会えたので、とても特別な旅になりました。

   日本の子どもたちはとても親切で、友好的で、温かく迎えてくれたので、本当に嬉しかったです。特に聖園を訪れ、聖園の子どもたちと過ごせたことが楽しかったし、彼らに会える機会を得られてとても嬉しかったです。

   また、日本人の子どものうち 3 人がタイのルーツを持っていると知って、驚きと喜びを感じました。タイと日本の間に繋がりがあることを発見できて、本当に良かったです。

   シンガポール、マレーシア、インドネシア、その他の国々からの子どもたちと出会えたことも楽しかったです。私たちは違う国から来ているけれど、それでも良い友達になれるのだと学びました。

2. たくさんの新しいことに挑戦できたので、すべてのワークショップが楽しかったです。特に三味線は、日本の楽器を弾いたことがなかったので、とても興味深いものでした。

   コラボレーション、特に『イッツ・ア・スモール・ワールド』と『ドレミの歌』は、さまざまな国からの友達と一緒に音楽を作ることができたので、とても嬉しかったです。

   また、マレーシアのチームのインド舞踊のワークショップに参加するのもとても楽しかったです。みんな笑い合い、一緒に楽しい時間を過ごしました。

3. 私は★★と同じ部屋に泊まりました。最初は言葉のことが心配でしたが、すぐに打ち解けて、新しい友達ができました。言葉の違いがあっても、みんなで一緒に楽しむことはできると学びました。

   キャンプを通じてお互いをより深く知り、友達ができました。コミュニケーションの取り方や、部屋を共有する方法、お互いの習慣を尊重する方法を学びました。

他の国から来た人と一緒に過ごすことが楽しくて面白いことだと学べたので、良い経験だったと思います。また、自立心も養うことができました。

4. ミニコンサートは、新しくできた友達と一緒にパフォーマンスができたので、本当に楽しかったです。

   台風が来た時は、公演ができなくなるのではないかと心配になりましたが、スタッフが懸命に会場を変更してくれたおかげで、無事にショーを行うことができました。

   次回もまた国際的な公演があれば素晴らしいと思います。もっと多くの国々の音楽やダンスを取り入れ、みんなで一緒に大きなパフォーマンスを作り上げられるかもしれません。

5. はい、絶対にまた参加したいです。

   とても楽しくて、いろんな国から友達ができるから、友達にも勧めるつもりです。他の文化について学べたり、今まで経験したことのないような活動に挑戦したりすることもできます。

   コミュニケーションの取り方や協力の仕方、他の人と仲良く暮らす方法を学べるので、子どもたちにとって良い経験だと思いました。

6. 私たちを世話してくださり、キャンプをとても楽しいものにしてくれたスタッフの皆さん、ありがとう。

   ワークショップやアクティビティ、パフォーマンス、そして新しい友達みんなと過ごした時間が本当に楽しかったです。

   日本、シンガポール、マレーシア、インドネシアの友達からいただいた素敵なプレゼントもありがとう。これらは『アートキャンプ 2026』の特別な思い出として大切に保管しておきます。

   『アートキャンプ 2026』では本当に楽しい時間を過ごしました。将来、新しい友達みんなにまた会えることを願っています！

各国パートナーからの声～ArtCamp 参加後の子供たちの変化と次回の課題について～

1. 子どもたちへの影響（『』後の変化。できれば個人ごとの状況について）
2. このようなプロジェクトについてどう思うか。次回も実施する場合、参加してくれるか。提案や改善点はあるか。
3. その他、コメントがあれば

＜日本　聖園子供の家＞

1. 参加者 A -（『アートキャンプ』、『ショートスティ in シンガポール』と国際交流イベントに）複数回目の参加であったため、誰よりも頼りがいがあり、終わった後も自信をもって会話できる様子がふえた。本児自身コミュニケーションを積極的に取れる様子もあったが、参加者Cと周りの人たちを繋ぎ、相談に乗りつつどうしたらよいかを考える経験があったことで、ただ話を聞くだけではなく解決方法を模索できるようになってきたと思う。

   参加者 C - なれない状況ではあったが、最後までやり切ったことで自信がついたように感じる。また、海外の方ともコミュニケーションを自ら取れるようになっていった姿が見られ、ひとりで行動することが苦手なので、体験を重ねて少しずつコミュニケーションをとることが慣れてきているのではないかと思う。

   参加者 D - 頂いたお土産のキーホルダーなどをきっかけに、モチーフとなっているものの名前やその発祥の国について興味を示す様子が見られた。また、以前から自信を持っていた英語についても、交流を通して想像以上に自分の英語が相手に伝わることを実感し、さらに自信を深めた様子が伺えた。

   参加者 B - 事前の zoom の参加はできず、職員側としては参加する気力があるのかも含めてひやひやとしていたが、事前の準備もしっかりしてきちんと参加できていた。本人自身としては意識をせずにやっているのだと思われるが、うまく自己管理をしていたと思う。今回の『アートキャンプ』を通して、力を入れるところとうまく力を抜く場面を学べたようにも感じる。また、自分でもコミュニケーションが取れたということは自信につながったようで、最近自信を無くしていた部分も多かったが、表情も明るく声も力強さが出てきたと思う。

2. 海外の子と交流できる機会はあまりないので、良い機会だと思った。子どもたちに参加してほしいが、どういう役割で行なうかなど、きちんと理解をした上で参加をさせたいと思った。

   今回年上児が海外の方たちと交流しているのを見て、「自分もやってみたい」と思っている子どもたちはたくさんいたと思う。ぜひ続けていき、そのような子どもたちが増えていったら良いと思った。

   普段の生活のなかではなかなか得られない貴重な経験ができる機会であるため、ぜひ子どもたちにも参加してもらいたいと感じる。特に言葉が十分に通じない相手との交流を通して、相手の気持ちを理解しようとする姿勢や自ら歩み寄って関わることの大切さを学ぶことが出来、子どもたちにとって大きな成長につながる機会になると考える。

言葉の通じない相手とどのようにコミュニケーションを取るか、どう自分も楽しむことが出来るようになるかなど、迎え入れる・お世話をするという立場になり考えることは多いと思われる。何かと内にこもりやすい子どもたちが増えてきている中で、飛び込んでやってみようという形は子どもたちの成長、考え方の転機にとても大切なことだと思われ、とても良い経験となっていると思う。ぜひ今後も子どもたちに参加してほしいと思う。

3.民族衣装やダンス、現地のお土産などを、五感を通して楽しむことで異文化への興味や関心をより身近で具体的なものとして深めることが出来た。また、実際に現地の方々と交流することで、異文化を単なる知識として捉えるのではなく、実感を伴った学ぶ下とつなげることが出来たと感じる。素晴らしい体　験をさせていただき、ありがとうございます。

お世話係の子どもたちの成長もだが、『アートキャンプ』として様々な国の同世代の子どもたちに来てもらうことで、聖園の小さな子どもたちの様子にも今回も驚かさた。言葉も通じず、会話のスキルもない中で笑顔・表情・雰囲気など非言語部分で交流を行い、安心してスキンシップを取ることが出来るのは、子どもたちならではだなと思った。シンガポールに行かせていただく際には、さらに1人で頑張る状況に飛び込む勇気や異国・異文化を直接感じる事が出来るすばらしさ、『アートキャンプ』ではたくさんの子どもたちは異文化に触れることの出来る素晴らしさ、どちらもあると感じている。ぜひ継続して頂き、たくさんの子どもたちの経験と成長ができる機会を頂けたら嬉しい。また日本文化といえど、今は中々触れることのできない体験をさせてもらえることも、聖園の子どもたちにとっても良い経験になっている。参加者Cのこともいろいろとご迷惑をおかけして申し訳なかったが、本人にとってもとても良い経験となっていると思う。ありがとうございました。

<シンガポール>

1. ２人の若者にとって、これまでで最も遠くまで行った場所は隣国のマレーシアだった。このキャンプは、その先へ旅する機会を彼らに与えてくれた。また、国際線出発ターミナルに立つなど、多くの「初めての体験」もできた。参加者 B については、この経験を通じて将来海外で働くことを考えるきっかけになったと語っており、キャンプが彼女の視野を広げ、将来のさまざまな可能性について考えるきっかけとなったことを嬉しく思う。参加者 A については、キャンプを通じて異なる国からの仲間たちと共同生活を送る機会を得て、彼らとの違いにどう向き合うかを学ばなければならなかった。2 人の若者とも、これまで経験したことのない状況に対処しなければならなかった。

2. このプロジェクトは非常に有意義だと考えている。子どもたちが自国の快適な環境から離れることは困難を伴うこともあるが、経験に前向きであれば、成長し、学び、自分の居心地の良い領域から一歩踏み出す貴重な機会となる。もちろん、次回も参加するつもりだ。キャンプに参加する機会を与えていただき、本当にありがとう。提案として、2 日目に聖園へ向かう前に、まず中心となる若者たちだけで、短い親睦会やアイスブレイクを行うのはどうだろうか。そうすれば、聖園の他の子どもたちが紹介される前に、互いを知り合い、キャンプのルールを定め、より気楽に接し合えるようになるだろう。また、若者たちが信頼関係を築き、キャンプ期間を通じて互いに支え合い、頼り合う方法を学ぶのにも役立つかもしれない。

3. 若者たちがキャンプに参加できる素晴らしい機会をいただきありがとう。また、厳しい天候の中でも私たちを気遣ってくれたことにも感謝している。キャンプを成功させるために費やしてくれた時間と努力に心から御礼を申し上げる！

<マレーシア A>

1. 参加者 B - 対人スキルとコミュニケーション能力が大幅に向上した。

   参加者 C - 以前は新しい状況を恐れていたが、初めての人々や文化に対して驚くほど順応した。

   参加者 A - 3 人兄弟の末っ子だが、成熟度が著しく向上した。

2. 素晴らしいプロジェクトであり、より多くの国で実施されるべきだ。このようなプロジェクトに今後も参加したい。一つ提案があるとすれば、特にプログラムの合間の自由時間に、アイスブレイク・ゲームを取り入れることだ。これにより、参加者同士の距離を縮めるのに役立つかもしれない。

3. 規模を拡大すべき素晴らしいプログラムだ。

<マレーシア B>

1. 私たちが連れてきた 3 人の子供たち全員に、驚くべき変化が見られた。それぞれがより親切になり、責任感が増し、共感力も高まった。また、新しいことを学んだり挑戦したりすることへの興味も湧いてきた。質問することを恐れることがなくなり、自信もついた。

2. このプロジェクトが大好きで、間違いなくまた参加したい。予算と時間が許せば、参加者全員でその地域を巡る江ノ島などへの 1 日ツアーも楽しそうだ。プログラムはよく考えられており、子どもたちは自分の「快適ゾーン」から飛び出して交流することを余儀なくされたが、日本文化について学ぶことを楽しんでいた。私も同様だった。

3. 10 点満点中 10 点 👍😘 またぜひ参加したい。この機会を与えてくれたこと、そして皆が示してくれた心遣いに心から感謝している。特にホストやシェフ💕には、私たちが食事を十分に摂れ、快適に過ごせるよう、本当に多くの手間をかけてくれた。近いうちにまた皆に会えることを願っている。

   注. マレーシアからの参加者は全員ベジタリアン。

<インドネシア A>

1. 参加者 A にとって、これは初めての海外旅行だった。より広い世界、特に独特な文化、規律、ライフスタイルを持つ日本を目の当たりにすることは、彼女にとって並外れた経験となった。

また、参加者 A は、親元を離れ、愛情を渇望して暮らすミソノの子供たちの生活を目の当たりし、世界のもう一つの側面を知った。参加者 A 自身も、これらの子供たちに対して深い愛情と気遣いの絆を感じた。さらに、参加者 A は三味線や折り紙といった日本の伝統芸術を学ぶことに非常に熱心だった。

参加者 A には、実に有意義な変化が見られた。

参加者 B にとっては、ミソノでの体験に深く共感し、心を通わせることができた。音楽を一緒に演奏したり、これまで会ったことのない子どもたちと寝室を共有したりすることで、友情についてまったく新しい視点を得ることができた。

しかし、参加者 B が表現したいことの多くは、依然として参加者 C（弟）の行動によって妨げられることが多かった。

2. このプロジェクトは素晴らしい。子供たちのネットワークを広げ、自分たちの生活を超えた世界を見開かせてくれる。特に、彼らはこれまであらゆる設備が整った快適な環境で暮らしてきただけに、なおさらだ。

   もちろん、私も参加する。必要な時はいつでも、どんなことでも手伝う。

3. もし追加の予算があれば、プログラムを 1 日延長して、ワークショップを 1 つか 2 つ追加することもできるかもしれない。ワークショップは必ずしも日本文化に関するものである必要はなく、前回のインド舞踊のセッションのようなものでもよい。

   また、子供たちのために簡単な音楽ワークショップを私が担当するよう依頼しても構わない。

   あるいは、もっと良い案がある。次のような企画を組むのはどうだろうか：

   * 聖園の子どもたちと一緒に、史跡や歴史的な場所へ行く短い歴史ツアー、あるいは

   * 芸術に焦点を当てた小旅行――学校や美術・音楽大学、コンサートホール、あるいは三味線や箏の工房を訪れるなど。もちろん、これにはバスを借りるための予算が必要になる。

<インドネシア B：参加者 B および C の保護者>

1. 子どもたちは、プロの講師から直接指導を受けることで、様々な文化、特に日本の伝統楽器やインドの舞踊について理解を深めることができた。また、言葉の壁はあるものの、他国の子どもたちと交流しやすかった。

2. このプロジェクトは素晴らしかった。機会があれば、間違いなくまたこのプログラムに参加したい。提案としては、個別のアート・パフォーマンスを増やしたり、イベントの最後に合同のアート・パフォーマンスを行ったりすることが挙げられる。

3. これは素晴らしいプログラムであり、毎年実施されれば最高だ。また、他国からの参加者を増やせればさらに良い。他国の参加者も間違いなく大きな関心を示すだろう。

<タイ：参加者 A・B の保護者>

1. 『アートキャンプ 2026』は、両参加者にとって非常に有意義で思い出深い経験だった。彼らは音楽や芸術の経験以上のものを得たと感じている。また、さまざまな国からの子供たちと出会い、共に生活することで、自信や自立心、そして開放的な心も育まれた。
   特に貴重な経験だったのは、息子たちが同じ部屋に泊まらなかったことだ。参加者 B は★★と、参加者 A は★★、★★、★★と、初めて会った子供たちと部屋を共有した。互いに離れて過ごすことで、彼らは自分の「快適ゾーン」から一歩踏み出し、自発的にコミュニケーションを取り、自分たちで新しい友情を築く機会を得たのだ。

   キャンプの後、2 人は出会った友達の話をとても興奮して語っていた。異なる背景を持つ子どもたちとコミュニケーションをとることに自信を持ち、新しい環境に適応することにも以前より抵抗がなくなっているのが見て取れた。

   聖園への訪問は、彼らにとって最も有意義な経験の一つだった。聖園は日本の児童養護施設であり、そこで暮らす子どもたちと出会い、時間を過ごす機会を得られたことは、非常に特別な体験だった。2 人は一緒に話したり、遊んだり、活動に参加したりすることができ、そこの子どもたちは温かく、親切で、友好的だと感じた。

   また、日本の子どもたちのうち 3 人がタイ系の血を引いていることを知ったのは、2 人にとって素晴らしい驚きだった。これにより、タイと日本の間に非常に特別なつながりが生まれ、この体験はさらに思い出深いものとなった。

   聖園の子どもたちとの出会いは、2 人にとって、国籍や背景の違いを超えて、優しさや友情、そして人間同士のつながりの大切さを実感する機会になったと信じている。これは単なる訪問ではなく、彼らが長く記憶に残る有意義な体験となった。

2. このような国際交流プロジェクトは、子どもたちにとって極めて価値があると思う。ワークショップやパフォーマンスだけでなく、日常生活、部屋や食事を共にし、新しい友達とコミュニケーションを取り、異なる文化を共に体験することを通じて、実体験から学ぶ機会を与えてくれるからだ。

   今後また『アートキャンプ』が開催されれば、ぜひ参加したい。

   プログラムの運営は非常に整っており、特にチーム全員が、子どもたちや引率者全員をどれほど丁寧にケアしてくれたかに感銘を受けた。皆が親切で協力的であり、助けが必要な時にはいつでも喜んでサポートしてくれた。

   特に印象に残っているのは、ミニコンサート当日に台風が襲来した時のことだ。チームは迅速かつ冷静に対応し、会場を変更するとともに、全員の安全を確保するために必要な手配を行った。子供たちが安心し、前向き

な気持ちを保てるようにしながら、予期せぬ事態をこれほどプロフェッショナルに処理してくれたチームの対応に、心から感謝している。

今後のキャンプでは、異なる国からの子供たちが、より少人数の混合グループで一緒に活動できる機会をさらに増やしていただけると良いと思う。そうすることで、子供たちはより密にコミュニケーションを取り、さらに深い友情を育むことができるだろう。

3. 私たち全員にとって、これほど温かく、有意義で、思い出に残る体験を創り出してくれた『アートキャンプ』のチーム全員に心から感謝したい。

ワークショップは楽しく、子供たちにとって日本文化や様々な芸術を体験する素晴らしい機会となった。特に、日本の雨人形（日本語の名前は思い出せない）、折り紙、ダンス・ワークショップ、三味線ワークショップをとても楽しんでいた。

「イッツ・ア・スモール・ワールド」や「ドレミの歌」を含む共同の音楽活動は、子どもたちがさまざまな国の友達と一緒に何かを作り上げる機会を得られたため、特に有意義だった。また、マレーシア・チームが用意してくれたインド舞踊のワークショップも、大いに楽しんでいた。

送別ディナーもまた、素敵な思い出の一つだ。キャンプ期間中を通しての温かい歓迎、美味しい食事、そして関わってくださった皆様の親切に心から感謝している。

また、日本、シンガポール、マレーシア、インドネシアの子どもたちや友達からいただいた、心温まる贈り物やお土産にも大変感謝している。それぞれの贈り物は特別な友情の証であり、『アートキャンプ 2026』で築いた素晴らしい思い出を思い出させてくれるものとなるだろう。

何よりも、この『アートキャンプ』を通じて、2 人がさまざまな国の子どもたちと出会い、日本の文化を体験し、新しい友達を作り、異なる背景を持ちながらも共に生活し、協力し合うことを学べたことに感謝している。

チームの皆さん、これまでの献身的な努力、心遣い、そして親切に改めて感謝する。『アートキャンプ 2026』の一員になれたことを大変幸運に感じている。この素晴らしい国際交流プログラムが、これからも長く続くことを願っている。

おわりに

2023 年から『ショートスティ in シンガポール』と『アートキャンプ』を 1 年ごとに開催し、二周目が終わった。対象となっている聖園子供の家の子どもが、この二つのプログラムを通してたくましく経験を積んでいる様子に安堵する。

今回の『アートキャンプ』では、聖園の子どもに限らず海外参加者の中にも、安心領域（コンフォートゾーン）を抜け出すのに苦労した子どもが何人もいた。夜な夜な泣きそうになる子ども、反抗的になる子ども、秘密を作る子ども、そんな子どもに理解を示すつもりで屁理屈を重ねる子ども ― 当たり前といえば当たり前の反応ではあるが、DAY3にミニコンサートを開催するころには少し安心領域が広がっていたように見えた。彼らがどう自律していくか、三周目の『ショートスティ in シンガポール』と『アートキャンプ』が楽しみだ。

この主催者なりの不安や葛藤、希望を知ってか知らずか、聖園の小学生が『アートキャンプ』中にやってきて、「大変だと思うけど、私が高校生になったら（『ショートスティ in シンガポール』で）シンガポールに行きたいから、それまで続けてね」と。数えてみたら、あと5年。背中を押される（支えられる？）思いと、5年後も聖園にいると考えているその子どもの背景を想像して、この二つのプログラムを改善して続けていかねばと背筋が伸びる思いだ。

台風によるプログラムの変更調整や弁当の手配、また大雨で三味線の皮が破れるなどアクシデントもあった。イラン戦争による航空券など物価の上昇にも、ずいぶん影響された。今回はうまく対応できたと考えているが、気候変動も経済悪化も今年だけのことではないだろう。子どもに対してだけでなく、今後何事にも柔軟に対応できるよう益々入念な準備が求められる。そのような状況下で、各国の付添人やその組織が、楽譜制作やダンスの振り付け、ワークショップの指導など手分けをして一緒に準備をしてくれたことは、ひたすらにありがたい。長く一緒に活動を続けてきた海外の仲間に感謝するとともに、二つのプログラムに参加する子どもには、そんな仲間を作ってほしい。

どうぞ引き続きのご支援をお願いいたします。

ご寄付のお願い

リトル・クリエイターズの活動にご賛同いただけるようでしたら、是非、ご寄付をお願いいたします。お預かりするご寄付はすべて、恵まれない環境に置かれた子どもの為に役立てます。

寄付専用口座

三井住友銀行　新宿支店（普通）4145884 トクヒ）リトル・クリエイターズ

コングラント・サイト

右の QR コードから、クレジットカードでお振込みいただけます。